



夏が近づくと、私は子供の頃をよく思い出す。当時はほぼ放任状態で育てられていたように思っているが、生きる力を育てることには、とても厳しかったように思う。

学業よりも生活のための手伝いが優先され、炊事、洗濯と何でもやらされた。掃除機も洗濯機も水道もない生活では、現代からは想像もできないほどの労力が親の、特に母親の負担になっていたからだろう。中でもいちばんきつかったのは、風呂水入れだった。ブリキの大きなバケツに「くみ上げポンプ」でくみ上げ、水を運ぶ。往復10回前後の労力は子供には大変なものだった。その他、まき割や風呂焚きと、勉強をする時間もなかったように思っている。

しかし夏休みは特別だった。宿題も「夏の友」と「工作」か「作文」くらいで、まさに遊びに夢中になれる毎日がそこには与えられていた。遊びと言っても自然相手の遊びが主で、自然を敏感に感じながらの毎日には感動も多く、自ずから感謝ということも教えられていったようにも思っている。

そういう意味では現代の子供たちは不幸ではないかと思えてきたりする。何不自由のない生活に心から「感動」できることがあるのだろうかと思ったりするからだ。

かつての三種の神器もいつしか「あたり前」に存在し、あの一日がかりの炊事洗濯も、いつしか遠い昔となってしまった。本来「あたり前」でないことを、「あたり前」の日常にしていって生活の追求が幸せであるのかどうか、いささか疑問に思うようになってきたこの頃である。

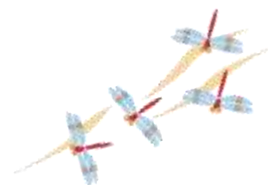
今、夏休み真っ盛り。子供たちは毎日何をして過ごしているのだろうか。快適な環境に囲まれて良い子にしているのだろうか。外で遊び、ましてや手伝いをしている子供の姿などすっかり見なくなってしまう。自然に触れ、労働の汗をかき感動や感謝の気持ちを味わわせてやりたいものだと思う。



光受寺 本堂にて

ある老人会での  
法話風景

男性はお一人？  
女性ファン？に囲まれて。



## 秋季永代経のご案内

遠いご先祖に思いを致し、私につながる「いのち」の有り難さをしみじみと感じ受け止めていただける良い機会ではないかと思えます。多くのご参詣をお待ちいたしております。

九月二十三日（土） 午前・午後 お斎あり

午前十時 読経

十一時 法話 寺族

十二時〜 お斎

午後一時 読経

二時 法話 寺族

三時 恩徳讃



去る七月二十一日（金） 十時三十分〜

ある老人会のグループからご縁をいただいて、約一時間の法話をさせていただきました。

参加者は十六名。このグループは過去何度かご縁をいただいたことがありましたが、お寺へ足を運んでくださる有難さに頭が下がる思いがいたしました。

途中休憩なしのおよそ一時間。暑い時期にも関わらず、皆さん熱心に聞いてくださいました。

話の内容は「感謝の思い」についてでしたが、報恩感謝の生活を改めて確かめ、生きる喜びとして生きてほしいという願いからでした。

外部団体の方からの依頼が、年に1、2回はありますが、こうした間法道場としての姿がもっともたくさんみられるようになることを願っています。今年もどうぞ。

九月のお彼岸には、光受寺で永代経が勤まります。お彼岸とは、春分、秋分の日を中点として前後各三日間を合わせた七日間をお彼岸と呼びます。お彼岸とは仏教用語であり、彼岸とは、極楽浄土のことです。それに対して、私達が生きている娑婆世界を、此の岸、此岸（この岸）と呼びます。

阿彌陀経』に「れより西方に、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽といふ。その土に仏まします、阿彌陀と号す。いま現にましまして法を説きたまふ」とあります。つまり、西の彼方に極楽浄土がありそこに阿彌陀様が居られるといふことです。

春分と秋分の日は真西に太陽が沈み、一年で最も極楽浄土に近い日とも考えられています。ですから、お彼岸はご先祖様に感謝すると共に、西に向かつて手を合わせ「どうか私もお浄土に生まれたいことが出来ますように」と阿彌陀様に願う日でもあるのです。

光受寺喫茶

その後



光受寺で気軽に話の出来る喫茶口を設けて、もう一年以上ほぼ500回が経ちました。特別なことがない限り毎週金曜日には午後から聴風庵、本堂を開放しているのです。おかげさまで最近では気軽にいただけれるようになりました。そしてだれよりも住職が一番楽しんでいるのです。ブログにも時々紹介はしていますが、今回は最近の喫茶風景のビデオを紹介いたします。

七月二十八日 金（午後）時頃



最近の暑さは少々閉口気味。11日の暑さはひどいながらも越えただけならさういふひどいさみく新聞しんぶんに没頭してしまいましたが、お名の方に来ていただけたらいいな。

室内は意外に涼しく、扇風機一し、短い法話動画をネットで見させていただきました。

お彼岸はお休みです。

墨俣町仏教会 「お経を習いましょう」 子ども大会開かれる



毎年、墨俣町仏教会では「お経を習う会」を計画し、最後の日は「子ども大会」として、ゲームや、紙芝居、かき氷をして楽しみます。今年も多く子供たちが参加してくれました。ありがとうございました。

今月の法語 (掲示板)

仏法は心を映す鏡です。

私たちは、常に自分の思いを中心に生きています。仏法さえも自分のものさしで当りつめておぼろげに都合よく見えてくる鏡です。そんな愚かさで気がつかせていたものを、そればかり



始めまして。おかめイン「のー」と申します。ある日突然、光受寺に連れてこられました。

私にはご主人を選ぶ権利はないので悲しいのですが、幸いかわいがっていただいていますので、何とか生きていけるような気がしてまいりました。言葉も少々話せますが、ごちんちかといつと歌が好きです。光受寺で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

り仏法でしかないのです。南無阿彌陀仏が私の心に届けられていた「お経を習いましょう」とも新たな私が生まれるのです。仏法は心の心を映し出している鏡なのです。

第2土曜日（7月29日）時頃 再開いたします。